

古事記を読む会

19号 (2016, 3, 6)

おひな様も過ぎ、いよいよ陽春。春は張る。草の芽が張り出す時だそうです。
今回は、P 135 (鵜葺草葺不合命) から音読です。
読みを30分ほど、そして、各自、様々な点から意見を出してください。
後半も出来れば読みがあって、話し合いを！次年度の予定も話します。
前回の残された課題についての話題があれば優先です。

- 1、カツラについて
- 2、キサグ対象は何か？他の訳文などの紹介
- 3、古事記の描かれた時代の国
など。

前回の流れ

前々回の流れを確認したのち、カツラの表記のある部分の読み直しをしました。
p 99～p 111、 (天若日子の派遣)
p 125～p 135 (海神の国訪問)

前々回の確認では、イズミ氏より、大国主のナヅについて、もう一度補説：
音(オト)の結びつき「ク」と「ヌ」の順での語彙は少ないが、クヌという動
詞を仮説クナ、クネ、クニは名詞形である。くねくね廻りくねって取り囲むの
が「クニ」と考える。クヌはカントリーと対応する。

キサガヒ比売とウムカヒ比売の所、小学館「古事記」の訳では、石に付着して
いたオオナムチのからだを石からこそげ取ると訳しているが、他書の多くはこ
そげ取るのは赤貝で、オオナムチの体ではない。資料を紹介
小学館版では、神野志氏が、熱い石を抱えて焼け焦げたと捉えた上で解釈して
いる。

高原;転がし落とされた火で焼いた大きな石をつかまえてその石に焼き付けら
れてオオナムチは死ぬ。その死の状態をどう捉えたか？石に焼き付けられた状
態をからオオナムチが生き返るには、石からオオナムチをこそげ取るしかない
のでは？他の訳の場合、焼けた死の状態をどのように訳しているのか知りたい。
国の概念は？ 当時のクニについて意見が出た。

大国主の命の平定した国：出雲の国。科野の国

日本書記には、本文に大国主平定は出ていない。一書に粗くでている。

日本書紀に、本文に出雲神話に主要部分がないのはなぜか？ 日本書紀の完

成後、それに飽き足らない者が、古事記を編纂したのか？ 古事記には古い物語が残っている。

☆カツラについて

ゆつカツラ：ゆつ＝神聖な 生命力か 湯：鉄の溶解状態
カ＋ツラ か、カツ＋ラ か、
古事記には、新しいものにどう食らいつくかが書かれていると思う
時代の先端技術（鉄）を伝えている。
先進技術と先進思想も？当時の神仙思想は先進思想
カツラ、月、うさぎ、かえる ？
東に不老長寿の世界がある。

☆ アジシキタカヒコネの名のも注目したい。

しき→スキ：農具。土木。戦争。武器としての面も強調されたか？
利器として使う。 ツク→ 突く。

☆カツラ 門前にカツラがある。井戸がある。

神木か？神木は、普通常若の常緑樹であるが、カツラは、赤、緑、黄と変化
カツラ 万葉集にどのように謳われているか？調べるのも一方法ではないか。
漢書地理志には倭人は百余国に分かれていると記録があり、後漢書や魏志倭人
伝には、1～2世紀頃の日本の国々について書かれている。いずれも弥生時代
であるが（対馬国、一支国、末盧国、伊都国、奴国、不弥国、投馬（つま）国、
邪馬台国、狗奴国等の名が窺える）

古事記の世界は、実際のどの時代が描かれているか？弥生時代、弥生終末期、
古墳時代をイメージする。大国主の頃の国とは？

以上、疑問が多く出た。直ちに解決できるものでもなく、しかしながら、疑問
を持ちつつ、読みながら、語りながら、少しずつは気になる点を出来るところ
から探っていくことがよいのかもしれない。

読むことを楽しみ、皆様のお蔭で、新しい発見に驚き、なぜなのか気になり、
つまずき、刺激を受け、考え出そうとする新たな自分に出会うことがあります。

◎ 焦らず続けましょう。「古事記の世界」が少しでも理解できるように！